

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①：学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

(観点にかかる状況)

本校は、山口県大島郡周防大島町に112,540㎡の敷地を有し、校舎・管理棟、専門科棟（電子機械工学科・情報工学科）、ものづくり教育研究棟、体育館（第一・第二）、機関実習工場（1・2）、課外活動施設、厚生補導施設、船舶等を整備している。（資料 8-1-①-1～2）

本校は、三級海技士の第一種養成施設であるため、それに必要な実習機器や実験室、練習船（大島丸）、実習用小型船舶（すばる）を整備している。（資料 8-1-①-3）教室はクラス毎に計 15 教室を設置し、冷暖房設備、液晶プロジェクタを整備している。（資料 8-1-①-4）。その他教員室及び学科別の部屋については、必要数を整備しており、各部屋は有効に利用されている。また、平成 25 年度補正予算により、走査型電子顕微鏡、蒸気タービン実習装置等、13 件の教育設備・実験設備を整備した。（資料 8-1-①-5）

情報処理学習のための施設として、情報教育センターを設置し学内ネットワークの維持管理を実施している。校内に情報ネットワーク端子を設置し、無線 LAN を使うことにより、校舎・管理棟・専門科棟及び練習船間の情報交換ができる環境としている。（資料 8-1-①-6）

その他、語学学習の施設として LL 教室を設置している。図書館については、海事、船舶関係図書の収蔵及びパソコン等を整備している。（資料 8-1-①-7）技術支援センター（資料 8-1-①-8）が管理する、機関実習工場棟には職業教育に必要な施設、設備となっている。学生の実験・実習に際しては、「実験実習安全必携」を配布・説明し安全な遂行を徹底している。

独立行政法人化に伴い、平成 16 年度から労働安全衛生法が適用となり規則の整備を図り、毎月産業医及び安全管理者による校内巡視を行い、教育研究等の活動における労働災害防止に努めている。（資料 8-1-①-9）

主要建物はバリアフリー化を推進しており、エレベータ、身障者用トイレ、ロープ設置している（資料 8-1-①-10）。今後の取組促進のため予算要求や計画実行を図っている。

環境委員会を設置し、環境負荷の少ないキャンパスづくりをめざし、環境美化、温室効果ガスの抑制に努力をし、新営・改修工事により、各建物に LED 照明器具、省エネタイプの照明器具、人感センサー、空調機器集中管理、全熱交換器、ペアガラスなどを設置している（資料 8-1-①-11）。また、校舎地区においてはデマンド監視装置を設置し、

電気使用の抑制に努めている（資料 8-1-①-12）。

（分析結果とその根拠理由）

教育に必要な施設・設備は整備されており、講義室、実験室等の利用状況も有効に活用されている。校舎改修工事により、教室は十分な広さが確保され、冷暖房設備、液晶プロジェクタ等が整備され教育環境の改善が図られている。設備面では平成 25 年度補正予算より教育設備・実験設備を整備した。

バリアフリー化については、学内の多くの建物で設置している。

環境についても環境委員会を設置し全学的に取り組みを行い、環境負荷の少ないキャンパスづくりをめざしている。

観点 8-1-②： 教育内容，方法や学生のニーズを満たす ICT 環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

情報教育センターでは、センター運営規則（資料 8-1-②-1）に示した管理体制に基づき、校内ネットワークシステムと教育用電子計算機システムを統括的に管理・運用している。

校内ネットワークシステムは、基幹としてコアスイッチから各学科のフロアスイッチまで 2 重化された光ケーブルが敷設され、基幹は 1 G b p s × 2 の 2 G b p s，フロアスイッチからの支線が 1 0 0 M b p s の高速通信を可能としている。平成 24 年度には、コアスイッチおよび全てのフロアスイッチ、エッジスイッチ（一部を除く）が更新され、コアスイッチについては 2 台のスイッチをスタッキングし、各フロアスイッチからリングアグリゲーションを用いてスタックされた異なるスイッチにリンクを張ることで冗長化と負荷分散を図っている。（資料 3）また、教室や図書館、視聴覚教室等には無線 LAN によるネットワーク接続環境を整備しており、教職員および学生の利用の便宜を図っている。

学外への接続に関しては、SINET 接続ノード校である山口大学との専用回線（1 0 0 M b p s，山口スーパーネットワーク経由）で接続されている。さらにロードバランサを導入することで、ADSL 回線を 2 回線使用することができ、これにより速度向上、冗長化を実現している。教育用電子計算機システムについては、情報処理教育の初歩から高度な専門教育まで、幅広い ICT 教育に利用されている。また、PC を利用した公開講座や島スクエアにも利用され、地域の方々に対しても広く利用して頂いている。システムの構成としては、平成 23 年度にネットブート型シンクライアントシステムに更新され、LAN 管理室に管理用サーバ、ディスクイメージ配布用の I/O サーバ 3 台、教員向けディスクイメージ管理用端末と学生向けディスクイメージ管理用端末を配置し、クライアントとして、第 1 演習室に 51 台、第 2 演習室に 51 台の計 102 台を用意している。併せて、教育効果向上のためにインタラクティブホワイトボード、教員卓の画面を投影できる液晶

プロジェクタとプラズマディスプレイ、マイク、スピーカなどの音響設備も導入され有効に活用されている。(資料 8-1-②-2)

また、クライアントのある情報教育センター第 1 演習室、第 2 演習室の授業・実験実習の利用は、第 1 演習室においては前期週 2 7 時間、後期週 2 6 時間、第 2 演習室においては前期週 2 6 時間、後期週 2 4 時間におよんでいる。(資料 8-1-②-3) 平日は 7:00~19:00 まで利用可能であり、授業・実験実習の無い時間および放課後は、課題、実験、研究への取り組み等、学生の自学のために開放して使用させている。また、17:00~19:00 の間は本校の専攻科生を技術補佐員として配置し、学生からの質問対応、コンピュータ利用中のトラブル対応、演習室内の美化等をしてもらっている。(資料 8-1-②-4)

情報セキュリティについては、平成 22 年度に情報セキュリティ関連の規則が整備されており、情報セキュリティ管理委員会により、情報セキュリティ教職員規程および利用者規程の評価及び見直しを行う体制となっている。

技術的なセキュリティ対策としては、ファイアウォールによるアクセス制御とクライアント型アンチウイルスソフトウェアを導入している。また、平成 24 年度校内ネットワークシステム更新の際に学内ネットワークに接続される端末の認証に MAC アドレス認証、利用者の認証に WEB 認証を導入し、学内ネットワークの不正使用防止を図っている。

(分析結果とその根拠)

本校では、高速 LAN ネットワークを整備し、教室、図書館、視聴覚教室等には無線 LAN ネットワークを整備している。また、情報教育センターには、十分な台数とスペックのクライアントを準備し、学生のニーズを満たす ICT 環境を構築している。セキュリティ対策についても、ファイアウォールによるアクセス制御とクライアント型アンチウイルスソフトウェアを導入し、ネットワーク接続端末に MAC アドレス認証、利用者の認証に WEB 認証を導入し、学内ネットワークの不正使用防止を図っている。

観点 8-2-①: 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整備されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

図書館には、閲覧室、開架・閉架書庫、パソコンコーナーを設置しており、和書約 75,000 冊、洋書約 2,600 冊の約 78,000 冊の蔵書があり、さらに 400 点の視聴覚資料を収めている。(資料 8-1-①-7) 蔵書は図書分類に従って系統的に整理されているほか、目的に応じてコーナーを作成している。加えて、新着図書を入口付近に配置し、その表紙のコピーを掲示することや、蔵書検索用のパソコンを入口付近に設置すること等を通して、図書館の利便性を高めている。

また、リクエスト票の受付(資料 8-2-①-1) やブックハンティングの実施等(資

料 8-2-①-2), 学生からの要望に応じて図書を購入する制度があるほか, 図書館運営委員に依頼し, 各学科の教員から学生の利用を目的とした専門書の推薦を募っている。

平成 24 年度～平成 25 年度の蔵書図書貸出冊数, 貸出人数及び平成 24 年度～平成 25 年度の開館日数, 入館者数を示す。(資料 8-2-①-3) 併せて, 年度別統計として学生一人あたりの年間貸出冊数等に係る比較も示す。

図書館の活用にあたっては, 入学時のオリエンテーションにおいて「図書館利用案内」パンフレット(資料 8-2-①-4)をもとに説明を行い, 学生の利用促進を図っている。また, 近隣住民を含む図書館利用者に対して平日の 2 時間の夜間開館(17:00-19:00), 土曜日の午後開館(13:00-17:00)等のサービスを行っている。

他にも, Online Public Access Catalog (OPAC) による蔵書のオンライン検索や, 電子ジャーナル (Japan Knowledge 他) の導入, 平成 25 年度より山口県大学共同リポジトリ「維新」への参加等, 図書館全体で ICT 教育促進に努めている。

(分析結果とその根拠)

蔵書は図書分類に従って系統的に整理している。選書にあたっては学生の要望を反映させるものとして, 学生によるブックハンティングを毎年 1 回実施しており, 教員の要望を反映させるものとして学科による選定図書, またリクエストを実施することで, 学生, 教員を問わず要望を反映できるようにしている。また, オンラインによる蔵書検索システムを利用可能としている。結果, 若干ではあるが図書館利用人数, 貸出冊数等が増加した。

以上のことから図書, 学術雑誌等その他の教育上必要な資料が系統的に整備され, 有効に活用されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 8 の自己評価の概要

教育に必要な施設・設備は整備されており, 講義室, 実験室等の利用状況も有効に活用されている。校舎改修工事により, 教室は十分な広さが確保され, 冷暖房設備, 液晶プロジェクタ等が整備され教育環境の改善が図られている。設備面では平成 25 年度補正予算より教育設備・実験設備を整備した。環境に関しては, 環境委員会を設置し全学的に取り組みを行い, 環境負荷の少ないキャンパスづくりをめざしている。

ICT 環境についても, 学生のニーズを満たす環境を整え, セキュリティについてもファイアウォールによるアクセス制御とクライアント型アンチウイルスソフトウェアを導入し,

ネットワーク接続端末にMACアドレス認証，利用者の認証にWEB認証を導入し，学内ネットワークの不正使用防止を図っている。

図書，学術雑誌等その他の教育上必要な資料は，系統的に整備され，有効に活用されている。

